

タッチタイピング習熟度向上のための指導法（第2報）

濱 口 な ぎ さ

Teaching methods for improving students' touch-typing proficiency (2)

Nagisa HAMAGUCHI

長崎女子短期大学紀要 第48号 令和4年度 別刷

Reprinted form

Nagasaki Women's Junior College Annual Report of Studies, 48 : 34 – 38

2023

タッチタイピング習熟度向上のための指導法（第2報）

濱 口 な ぎ さ

Teaching methods for improving students' touch-typing proficiency (2)

Nagisa HAMAGUCHI

キーワード：タッチタイピング、能動的学習、学習意欲、達成感

1. はじめに

昨年度の紀要にて、令和3年度入学生（以下、R3年度生と表記）を対象とした「タッチタイピング習熟度向上のための指導法」について報告した。今年度は令和4年度入学生（以下、R4年度生と表記）について、学生の習熟度を可視化するための取り組みを行ったので、その経過を報告する。

2. クラス分けの方法

R4年度生もR3年度生と同様、1年前期開講の「ビジネス文書作成1」にて、タッチタイピングの習熟度を主とした高校までのパソコン操作経験を参考にしたクラス分けを行った。

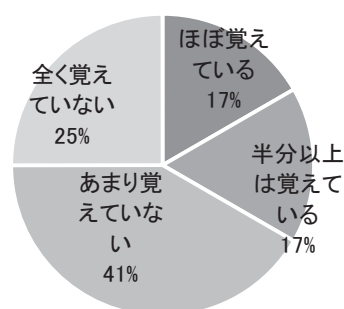
クラス分けは①アンケート調査、②e-typingを使用した実技によるレベルチェック、③高校時の取得検定、④本人の意向確認、以上4つの指標に基づいて行っている。

初回授業時に行う「①アンケート調査」は、R3年度生は下記8つの項目について調査した。

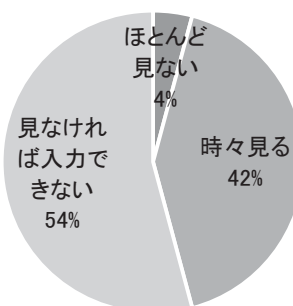
- (1) パソコンのキーボードの位置について
- (2) パソコンで入力するときキーボードを見るか
- (3) 使用したことのある文書作成ソフトについて
- (4) ビジネス文書の作成について
- (5) パソコンでの表の作成について
- (6) パソコンでの図形の作成について
- (7) 全商ビジネス文書実務検定試験の取得級

(8) 日商PC検定の取得級

これら8つの項目の中で、タッチタイピング習得状況が確認できる質問が(1)と(2)であり、R3年度生（21L）24名のアンケート結果は、図表1・図表2のとおりであった。



図表1 キーボードの位置について（R3）

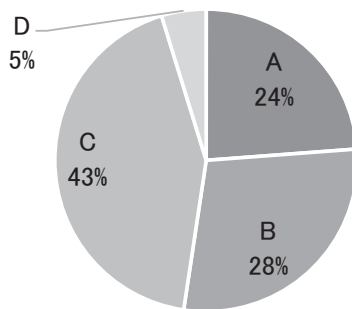


図表2 入力する時キーボードを見るか（R3）

R3年度生は図表2 入力する時キーボードを見るかで示した通り、「時々見る」が42%、「見なければ入力できない（13名）」が54%となっていたが、ローマ字入力の部分と数字や記号の入力で

タッチタイピングの習熟度に違いがあるのではないかと感じていた。そのため、R 4 年度生については、タッチタイピングに関係する設問を見直し、下記の4つの中から該当するものを選択する形に変更した。

- A 数字や記号も含めて、キーボードはほとんど見ないで入力できる
 - B 数字や記号を除いて、キーボードはほとんど見ないで入力できる
 - C キーの位置はだいたい覚えているが、キーボードを見ながら入力してしまう
 - D キーの位置はあまり覚えておらず、キーボードを見ないと入力できない



図表3 キーボード入力について (R 4)

アンケート調査の結果、図表3で示したように「A 数字や記号も含めて、キーボードはほとんど見ないで入力できる」24%、「B 数字や記号を除いて、キーボードはほとんど見ないで入力できる」が28%となっており、ローマ字入力の部分はキーボードをほとんど見ないで入力できる学生が52%いることが分かった。

昨年度の報告でも述べたように、ほとんどの学生は、小・中・高校での授業において、何らかの形でパソコンを使い、キーボードから入力した経験はあると思われる。今回のアンケート結果から、これらの経験により半数以上の学生がローマ字入力に必要なキーボードの位置をすでに把握できており、クラス分けにもこの結果が反映されるのではと推察した。

「② e-typing を使用した実技によるレベルチェック」は、イータイピング株式会社がネット

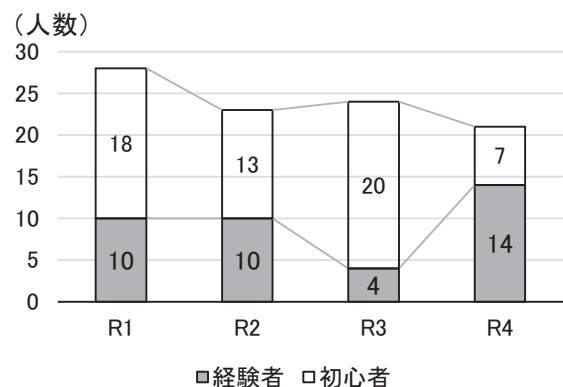
上で公開しているタイピング練習用サイトを活用したレベルチェックである。

初回授業時後半から第2回にかけて、学生は e-typing のサイトから自分のレベルにあった問題を選択して入力練習を行い、各自でタッチタイピングの習得状況を確認する。

クラス分けの基準を、「ホームポジションを起点として指を動かし、各キーの位置を『ほぼ覚えている』状態で、『時々キーボードを見る』かもしれないが、入力が正確にできること」とし、この基準を満たした学生を経験者クラスに配属している。

今年度も第2回目の授業の後半に、上記①②の状況と「③高校時代の取得検定」も参考にしながら、学生の意向を尊重したクラス分けを行った。

R 4 年度の入学生21名は、経験者クラス14名、初心者クラス7名に分かれた。参考までに過去4年間の経験者クラスと初心者の人数割合を図表4に示す。今年度は、過去4年間で初めて経験者の数が初心者よりも多くなったが、アンケート調査時のタッチタイピングに関する設問を見直したことにより、学生自身が自分の習熟度を自覚できたことが影響しているのではないだろうか。



図表4 初心者クラスと経験者クラスの割合

3. 目標設定

タッチタイピングの技能を習得し、スムーズな日本語入力ができるようになれば、「ビジネス文書作成1」を始めとするPCを活用する演習科目での知識や技能を効率よく習得することが期待できる。

特に初心者クラスの学生にとっては、タッチタ

タッチタイピング e-typing 練習の記録 (基礎・基本)

練習番号 氏名

スピードは気にせず、手元は見ず、「正確に」「正確に」入力すること！

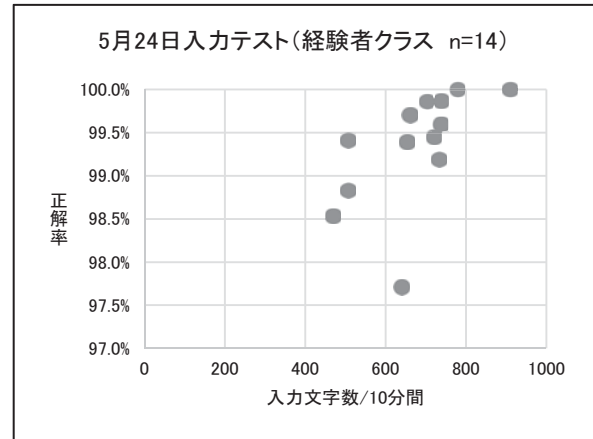
基礎練習 ①(1)～(4)を各5回ずつ繰り返し、正確率が100%になったものを記入する。
②(5)～(8)を各5回ずつ繰り返し、正確率が100%になったものを記入する。③(9)～(12)を各5回ずつ繰り返し、正確率が100%になったものを記入する。④(13)～(16)を各5回ずつ繰り返し、正確率が100%になったものを記入する。

項目	1文字	2文字	3文字	4文字	5文字	6文字	7文字	8文字	9文字	10文字
正確率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
入力回数	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

基本練習 ①(1)～(4)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。②(5)～(8)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。③(9)～(12)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。④(13)～(16)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。

項目	1文字	2文字	3文字	4文字	5文字	6文字	7文字	8文字	9文字	10文字
正確率	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%
入力回数	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

図表5 練習の記録（基礎・基本）



タッチタイピング e-typing 練習の記録 (応用)

練習番号 氏名

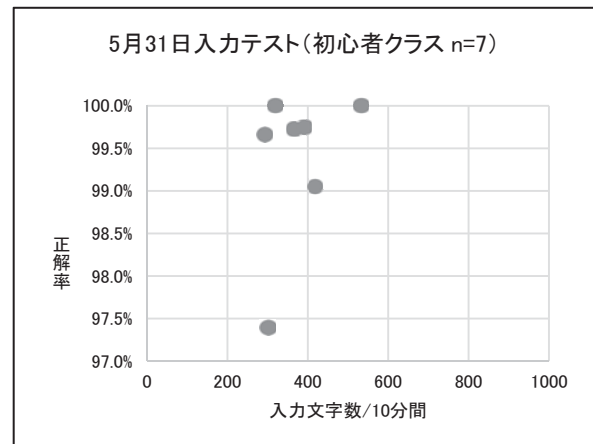
応用練習 ①(1)～(4)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。②(5)～(8)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。③(9)～(12)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。④(13)～(16)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。

項目	1文字	2文字	3文字	4文字	5文字	6文字	7文字	8文字	9文字	10文字
正確率	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%
入力回数	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

検定レベルチェック ①(1)～(4)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。②(5)～(8)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。③(9)～(12)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。④(13)～(16)を各5回ずつ繰り返し、正確率が98%以上になったものを記入する。

項目	1文字	2文字	3文字	4文字	5文字	6文字	7文字	8文字	9文字	10文字
正確率	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%	98%
入力回数	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

図表6 練習の記録（応用）



図表7 前期1回目の入力テスト結果

イピングのスキルを早い段階で一定レベルに達しておくことが必要となる。少なくとも5月中には、R4年度生全員が、授業に必要なタッチタイピングのスキルを習得する事を目指して「練習の記録カード（図表5、図表6）」を活用し、基礎・基本練習と応用練習に取り組んだ。

3.1. 目標設定

今年度の初心者クラスは人数が少なくきめ細かな対応ができたことから、昨年度より約1週間早く、応用練習を5月13日までに終了することと定めた。なお、経験者クラスは、4月28日までに終了することとした。

経験者クラスの学生については、5月24日と6月28日の2回入力テストを実施し、10分間で450字以上入力することを目標とした。

また、初心者クラスは、5月31日と6月28日の2回入力テストを実施し、入力速度より正確性を重視し、10分間で300字以上の入力を目標とした。

入力した文字数（入力数）から誤字・脱字等の入力ミスの数を引いた数を入力文字数（実数）とし、入力の正確性（正確率）は、実数を入力数で割って算出した。

図表7で示したように、経験者クラスは全員が目標の450字以上入力できており、正解率と入力文字数が多くなる正の相関がみられた。初心者クラスは目標の300字以上にわずかに達しなかった学生が2名いたが、正解率が高く、正確な入力を心がけたことが伺える。

筆者は、正確な入力を身に付けることによってタッチタイピングの習熟度は向上すると考えているため、学生の答案には上記の結果から読み取ったポイントをアドバイスとして明記し返却した。

5月末の時点で、ほぼ全員が10分間で300字以上の文字数を入力できたことにより、6月以降は「ビジネス文書作成1」を始めとするPCを活用する演習科目にて、タッチタイピングの習熟度のレベル差によるつまづきは少なくなったのではな

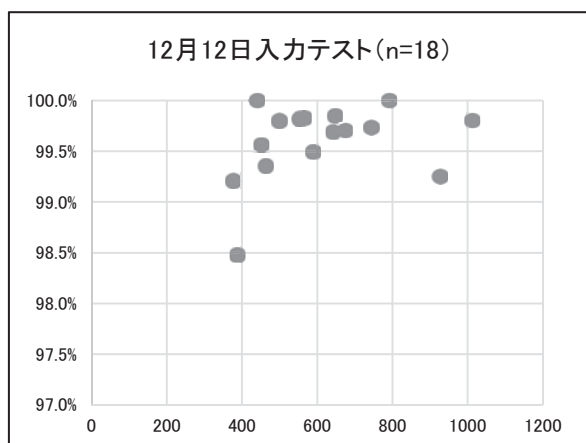
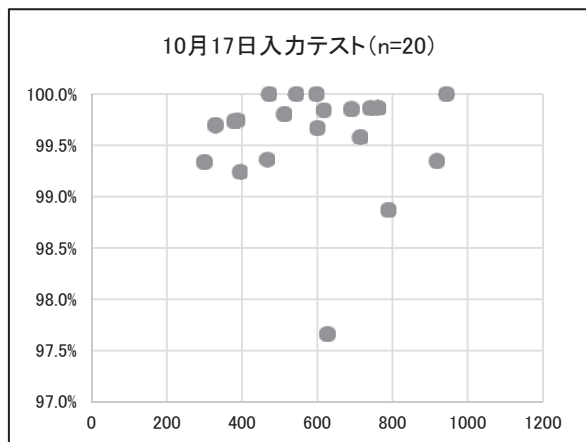
いかと感じている。

なお、6月に実施した2回目の入力テストは、1回目との期間が短く、タッチタイピングに関する課題を出さなかったことや、入力問題の内容が学生にとっては難しかったことなどが影響し、入力数、正確率とも伸び悩んでしまった。

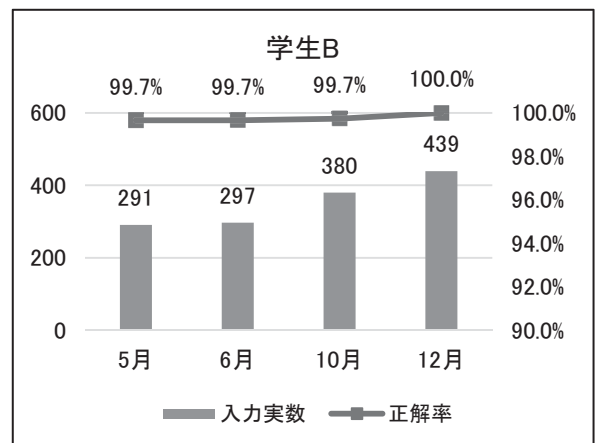
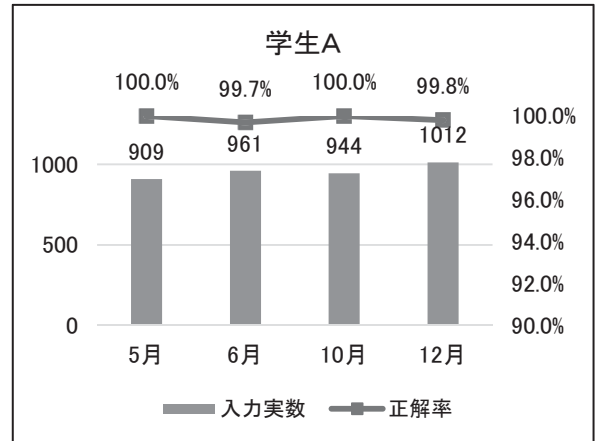
4. 結果と考察

1年前期は「ビジネス文書作成1」以外にPCの知識と技能を学ぶ演習科目が2科目、PCを活用する科目が2科目あり、これらの科目によってもタッチタイピングの習熟度が向上することが期待できる。

そこで、1年後期の「ビジネス文書作成2」の授業にて、10月と12月に入力テストを実施し、タッチタイピングの習熟度を確認した。その結果は図表8で示した通り。R3年度生が理想とする目標として上げていた500字以上のレベルに、12月12日の時点で6割超の学生到達していた。



図表8 後期入力テスト結果



図表9 入力テスト結果の推移(個別)

クラス全体での傾向を見るだけでなく、一人ひとりの学生の習熟度がどのように向上したか、あるいは伸び悩んでいるのかを明確にするため、図表9のような個別のデータをグラフ化し、12月12日に実施した入力テストとともに返却した。

学生Aは、高校時に全国商業高等学校協会(全商)主催のビジネス文書実務検定試験速度部門1級を取得していた。入学時にはタッチタイピングはマスターしていたが、入学後に習熟度が上がっていることがわかる。

学生Bは、入学時点では「キーの位置はだいたい覚えているが、キーボードを見ながら入力してしまう」段階で、e-typingによる「練習の記録」の進み方も遅く、タッチタイピングを習得するのに時間はかかった。しかし、遅くとも正確な入力を心がけ、確実にタッチタイピングの技能を習得した結果、着実に習熟度が上がっていることがわかる。

昨年度の紀要において、学生たちが持っている

「タッチタイピングの習熟度を上げたい」という意欲の継続をはかるために、定期的な入力テストを実施することが効果的ではないかと述べた。今回、1年後期に2回の入力テストを実施し、個別のデータをグラフ化したことで、学生たちの意欲の継続を視覚化することができたと感じている。

前期2回目の入力テスト結果が伸び悩んだ一因として、学生個人の日本語力、特に漢字の読みの知識が大きく影響している。漢字が読めないために、ローマ字入力ができず、IMEパッドなどで検索をする時間がかかっている。常用漢字等、日常的に用いられる漢字の読みはもちろん、将来学生たちが目指す業界や業種、職種で必要とされる専門用語等についても、読めること、意味を知ることによってタッチタイピングの習熟度が向上することが期待できる。

今後も、一人ひとりの学生のレベルに合わせた、きめ細やかな指導法を追究していきたい。

参考資料

- 1) 濱口なぎさ：タッチタイピング習熟度向上のための指導法，長崎女子短期大学紀要，47，138～142(2022)